

『瑜伽師地論』 卷四十八

蛭沼, 芽衣
九州大学大学院人文科学府 : 博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/1518323>

出版情報 : 文献探究. 51, pp.1-, 2013-03-31. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

『瑜伽師地論』卷四十八

瑜伽師地論卷第四十八

林勒菩薩說 法華經奉 詔譯

本地分菩薩地第五第二序隨法瑜伽復修常當三

間增上戒住菩薩轉時當知何行何狀何相
 各若諸菩薩先極歡喜住由十種心意樂已
 得意樂清淨何等為十一者於一切師長尊
 重福田不行虛誑意樂二者非同持菩薩忍
 辱柔和易可共住意樂三者勝伏一切煩惱
 及隨煩惱眾魔事業心自在轉樂意四者於
 一切行深見過失意樂五者於大涅槃深見
 殊利益樂六者於諸法善善提分法常勤懈
 習意樂七者於於彼備為隨順樂八者遠離
 意樂八者於諸世間有深算位利養恭敬元
 所願意樂九者遠離下乘趣證大乘意樂
 十者欲作一切有情一切義利意樂如是十
 種元倒意樂依心而轉是故說為意樂清淨
 即由如是十種意樂成上品故極圓滿故是
 諸菩薩入蓋第二增上戒住於此住中性戒
 具足極少邪惡業道而斷諸惡犯戒尚不現
 行況中上品又於十種圓滿業道自性顯現
 菩薩如是性戒具足能以妙慧於染不染惡
 趣善趣及諸乘中諸業現行若因若果備證

瑜伽師地論卷第四十八

一切諸艱難事正現在前而无怯弱自心能免

所讚美業如實隨轉既
 潤柔和有所堪能其心
 清淨又善知恩知報因

天年七年歲次甲申三月十日

讚以國利奉人聞是

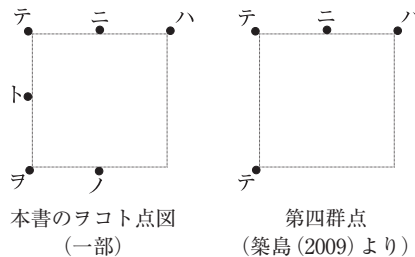
解説

蛭沼芽衣

『瑜伽師地論』は、唐の玄奘によって訳された、全百巻よりなる瑜伽行派の根本論書の一つである。『大正新脩大藏經』第三十巻（No. 一五七九）にも収められている。九州大学文学部に所蔵されているのは、このうち巻四十八の写本一帖である。表紙縦二四・四厘×横八・五厘。巻初に墨筆で「石山寺一□」と見えることから、石山寺一切経の一本であることがわかる。折本であるが、元は卷子本だったものを天明七年（寛政年間初頭頃）にかけて、石山寺において改装したようである。石山寺の一切経は、奈良時代から室町時代の各時代にわたる多種の写経・版経からなる取合わせ経で、石山寺には現在四四八五帖八十合が納められており、重要文化財に指定されている。『瑜伽師地論』はそのうち三九函に収められ、百帖のうち四三帖が現存する。これらの奥書は多種に分かれており、古いものから順に、天平二年（七三〇 巻第二）、天平十六年（七四四 巻第十四他）、天平勝宝六年（七五四 巻第三八）、宝龜十年（七七九 巻第二）の四種類がある。それぞれに付された白点も調点も第二群点・第三群点・第四群点・特殊点など種々にわたり、伝来の複雑さが伺える。

さて、本書の奥書には、「天平十六年歲次甲申三月十五日／讚岐國山田郡舍人國足」と見えるが、この奥書をもつものは石山寺に二十一本確認できる他、筑波大学国語学研究室（柴田（一九八〇））京都国立博物館（<http://www.kyohaku.go.jp/syuzou/>）、奈良国立博物館（<http://www.narahaku.go.jp/english/mobile/meihn/syoseki/077.html>）などにも所蔵されているようである。山田郡舍人國足については未詳である。

巻を通じて白点によるヲコト点・仮字点・一・二・三などの漢数字による返り点が見られるが、剥落してしまっている箇所もあり、判読が困難な状態になりつつある（口絵下段右側の写真は白点が見やすいように画像を加工している）。仮名字体には、「ロ（ル）」「小（ナ）」「ル（ツ）」など、やや特異な字体が確認できる。ヲコト点は、壺の上段左から右に向かってテ・ニ・ハと並ぶ、いわゆる第四群点に属する（下図参照）。第四群点は早く平安初期から存しているものの、識語がないものが多く、「それが行はれた学派の勢力が弱かった」（築島（二〇〇九））ようである。本書も識語がないため、加點時期は不明であるが、ヲコト点や仮名字体は、「正倉院聖語藏 今光明最勝王經」古点や「四分律行事鈔」古点などと同系のものようである。春日（一九三五）では、ヲコト点・仮名字体から、「この調点は、貞観より下らざるもの、まづ天安の大智度論点前後の所に置かれるべきものであらう」と推定している。大智度論点は天安二年（八五八）の加點である。本書の点がこれらと同一の人物もしくは師資関係にある人物による加點であったとするならば、本書の加點も少なくとも平安初期に行われたことにならう。



〈参考文献〉

- 石山寺文化財総合調査団（一九七八）「石山寺の研究 一切経篇」法蔵館
- 春日政治（一九三五）「今光明最勝王經註釈 一本の古点について」『古訓点の研究』風間書房（一九五六）所収
- 柴田昭二（一九八〇）「平安初期における漢文の一訓について」『香川大学国文研究』五
- 築島裕（二〇〇九）『調点語彙集成 総論・載録文獻一覽』汲古書院